

1 研究主題

複数教科における「学びの質を高める5つのポイント」をふまえた授業改善<1年次>

2 研究の方向性

小さな成功体験の積み重ね（できる） <全員参加>

【教える】 ↓ ↑ 【ほめる】

学習内容の理解（分かる） <全員達成>

↓ ↓ ↓

適用題を解くことで実感「できた!」「分かった!」 <全員成長>

「できた!」「分かった!」と児童全員が実感するために、児童の実態を適切に把握し、それに応じた指示・発問や板書、学習過程などを工夫した指導と評価の一体化がなされた授業づくりを目指す。

3 主題設定の理由（略）

- (1) 社会的要請から
- (2) 人権教育の視点から
- (3) 本校児童の実態から
- (4) 本校学校教育目標の具現化から
- (5) 昨年度までの研究の成果と反省から

4 研究の仮説

「学びの質を高める5つのポイント」をふまえ、次の3点に留意して学習を展開していけば、児童全員が「できた!」「分かった!」を実感することができるであろう。

<着眼1> 「学習に取り組む意欲」につながる導入の場の工夫

【学びの質を高める5つのポイント 1、2を中心に】

<着眼2> 「自ら考え、判断し、表現する力」につながる展開の場の工夫

【学びの質を高める5つのポイント 3、4を中心に】

<着眼3> 「基礎的・基本的な知識・技能の定着」につながる終末の場の工夫

【学びの質を高める5つのポイント 5を中心に】

5 「学びの質を高める5つのポイント」とは

(1) 学び合いの「質を高める」基盤づくり

- ①発言のルールや相手意識を指導し、受容的態度を育てる。
- ②常に理由や根拠をもって説明できるように指導する。
- ③質問する習慣が身に付くように指導する。
- ④議論を深めるよい質問ができるように指導する。

(2) めあての設定は「子どもと一緒に」

- ① キーワードを示し、子どもが考えためあてを教師が修正して設定する。
- ② 子どもが見付けたキーワードと考えためあてを教師が修正して設定する。
- ③ 子どもがキーワードを見付け、考えためあてを教師と子どもで修正して設定する。
- ④ 子どもがキーワードを見付け、考えためあてを主として子どもが修正して設定する。

(3) 「問い」と「気付き」を促す発問

- ① 「発問」を行い、一人一人の考えを確かにさせる。
- ② 「くらべる発問」を行い、気付いた違いを生かす。
- ③ 「ゆさぶり発問」を行い、理由や根拠を掘り下げる。
- ④ 「くらべる発問」「ゆさぶり発問」等、開いた発問を効果的に組み合わせる。

(4) 「考えを深める」話し合う活動と書く活動

- ① 書く活動で考えをもたせ、話し合う活動で相手と出し合うことができるようにする。
- ② 書く活動で考えをもたせ、話し合う活動で相手に説明できるようにする。
- ③ 書く活動で考えをもたせ、話し合う活動で相手と質疑応答ができるようにする。
- ④ 書く活動と話し合う活動を効果的に組み合わせ、相手と考えを相互に深め合うことができるようにする。

(5) まとめと振り返りは「子ども自らの言葉」で

- ① ・めあてに対応するようにまとめをする。
・振り返りは「今日分かったこと」を言えるようにする。
- ② ・めあてに対応するようにまとめをする。
・振り返りは「今日分かったこと」「次の時間に頑張りたいこと」を言えるようにする。
- ③ ・子どもが板書にあるキーワードを使って考えた複数のまとめを一つにできるようにする。
・振り返りは「今日分かったこと」「次の時間に頑張りたいこと」を言えるようにする。
- ④ ・子どもが板書にあるキーワードを使って考え、それぞれ自分の言葉でまとめを書くことができるようにする。
・振り返りは「何によってどのように考えが深まったか」「(他教科や生活等への) 学びの活用」「次の時間に頑張りたいこと」を言えるようにする。

※ それぞれのポイントの①～④のステップは、「子どもに育成すべき能力」「教師が身に付けるべき授業力」としてとらえ、様々な場面で活用していくようにする。

- ◇ 子ども一人一人の能力に応じた指導目標の設定に
- ◇ 学級の年間の指導目標の設定に
- ◇ 教員の授業力向上の指標に
- ◇ 校内OJTの指導目標・指標の設定に

6 仮説実証のための具体的な方策（例）

（１）「学習に取り組む意欲」につながる導入の場の工夫

← 本年度は、ここを中心に研究を進めたいと思います。

- ◇ 共感的人間関係を育てる
 - ・ 「聞き方・話し方」「発表の仕方」の指導（教室掲示等の工夫）
- ◇ 学びの基盤を支える学習規律
 - ・ 沼小スタンダード（あいさつ、時間を守る、場を整える）の徹底
- ◇ 学びに向かう教室環境づくり（既習事項の掲示等）
- ◇ 既習事項をもとにした効果的な導入（明確な問題意識・目的意識）
 - ・ 「授業のスタートライン」（レディネス）をそろえる。
- ◇ 身につけさせたい学習内容の焦点化（分かりやすいめあて）
 - ・ 「考えの違い」「自信度のばらつき」から共通の問題を設定する。
- ◇ 明確な指示・発問（何をどのように解決させるのか）
- ◇ 児童の実態に応じた教材や手立て（ICT機器の効果的な活用） など

（２）「自ら考え、判断し、表現する力」につながる展開の場の工夫

- ◇ 明確な指示・発問 → 教師の言葉を精選・削除する。余計なことを言わない。
 - ・ 既習事項の確認の段階で（児童が解いてみたいと思えるような指示・発問）
 - ・ 個人思考の段階で（何をどのように解決させるのか、見通しをもたせる指示・発問）
 - ・ 集団思考の段階で（様々な考えを引き出し、思考を深めさせ広げる問い返し）
- ◇ 1 単位時間の授業の中に、「主体的に考え、話し合い、書く」というサイクルを定着させる。
 - ・ **見通し**をもたせ、まずは「自分の考えを**書く**」→ 書けない児童への支援
 - 速く正確に書く、自分の考えを自分の言葉で書く、習った漢字は使う
 - ・ **ペア学習・伝え合いグループ学習・全体交流**等の場の工夫
 - 何のための話し合いかを明確にして、話し合いの時間を確保する。（3分以上）
 - 「問い返し」を生かす活動（一部の子だけが活躍しない配慮）
 - 理解が遅れがちな児童を主役にして、他の児童の説明能力を高める。
 - 間違いを意図的・共感的に取り上げて、全員の思考を深める。
 - 友達の発言、教師の問いかけに正対する対話の仕方を教える。
- ◇ これまで本校が培ってきた「自分の考えを書く」「交流」を活かした活動（ICT機器の活用）
- ◇ 児童の思考過程を見取るための適切な机間指導
 - ・ 個々の考えを表出できるように、ノートやワークシートを工夫する。 など

（３）「基礎的・基本的な知識・技能の定着」につながる終末の場の工夫

- ◇ 板書の可視化・構造化（児童の思考の具体化）
 - ・ 「シンプル」「クリア」な板書を行い、多様な考えを整理する。
 - ・ 授業中に子どもたちの考えが関連づけられ、「まとめ」につながっている「めあて」
- ◇ 問題解決学習の学習課程

問題把握 → めあて → 見通し → 個人思考 → 集団思考 → まとめ → 振り返り

- ◇手立てに対応した目指す児童の姿【評価規準】の想定
 - ・評価としてほめる。意欲をもたせるためにほめる。
 - ・「分かったこと・気付いたこと・思ったこと」などを書かせる振り返り活動を設定する。
 - ◇適用問題・練習問題を解く時間の確保・内容の工夫
 - ・答えを求めるものばかりでなく、答えの求め方・考え方を問うような問題を計画的・意図的に準備する。
 - ・練習量をただ単に多くするのではなく、練習の目標を明確にし、その内容の精選や重点化を図り、「できた!」「分かった!」が実感できる練習の工夫や場の設定をする。
 - ◇学習を振り返り、子ども自身が自己評価をする。(ICT機器の活用)
 - ・自己評価としての振り返り → 担任の評価へ
 - ・振り返る視点の明確化(何をどのように振り返るのか)
 - ◇家庭との連携(宿題や自主学習ノートの工夫)
 - ・学習した内容が家庭にも伝わるように、家庭と連携・協力して、学習習慣の定着を図る。
- など

7 年間予定(5/29現在)

- | | |
|--------|-------------------------|
| 5月 | 研究主題と研究推進案の作成(教務) |
| 6月 | 提案授業(教務)(教師力向上研修の一つとして) |
| 6月~11月 | 各学級実践 |
| 12月 | 研究のまとめと研究紀要原稿の作成 |
| 1月 | 研究紀要の作成(データCDにする予定) |
| | 主題研究の振り返り 来年度について |

8 授業公開の形態

今年度は、**学年代表1名**が授業を公開する学年研修(C研)とする。

- ・事前の指導案検討会は行わないが、必要に応じて相談会を行う。
- ・管理職、研究主任、同学年および希望者で授業を参観し、放課後簡単な協議会を行う。
- ・**学年代表でない先生も、教材・指導案作成等の授業準備に積極的に関わり、学年での共同研究が深まるようにする。(学年代表者が一人で抱え込まないように)**
- ・**学年代表でない先生も、本時の授業場面を事前に行う等、可能な限り管理職に授業を公開するが、指導案の作成は任意とする。**

※ 授業の記録(写真など)や協議会の進行・記録は同学年で行う。

※ 今年度は、全員研修(A研)や近接学年研修(B研)は行わないが、指導主事来校に合わせて、どなたかにA研またはB研をお願いすることがあるかもしれません。

※ 主題研究と11月の中学校区人権研修会は兼ねることはできない。

※ **専科・特支の先生は、主題研修ではなく3学期に学級開放日を設定し、授業を公開する。**

9 指導案の形式（別紙参照）

今年度は板書型の指導案に統一する。

10 その他

下記の教諭及び講師は、期日までに教育センターでの選択研修受講後、学習指導案と授業実践報告書を提出しなければならないため、C研と兼ねてもよい。